

久留米
高専通信

[March 13, 2023]

第96号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 松村 晶

卒業生・修了生に贈ることば 『小森野を巣立つ皆さんへ』

久留米工業高等専門学校本科の卒業生ならびに専攻科修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。それぞれ15歳からの5年とさらに2年という、青少年から大人に成長していく人格形成の重要な時期を本校の小森野キャンパスで同年の級友らと喜怒哀楽を共感しながら勉学に励んでこの日を迎えました。人生100年と言われる始めて久しくなりますが、その中の5年や7年は物理的な時間としてはほんの僅かです。しかし、その重みは皆さんが今思っているより遥かに大きなものであることを、歳を重ねるにつれて実感していくことでしょう。本校で過ごした年月と、ここで培った人として技術者としての素養と人脈はこれからの皆さんの人生の基盤となると言っても過言ではありません。これらを大事にして、これからの人生を豊かなものにしてください。

高等専門学校は1962年にわが国独自の高等教育制度として設立されました。2022年は高専制度創設60周年ということで、今年度はそれを記念する様々な取り組みや行事が行われてきました。その中で高等専門学校のこれまでの歩みと発展が総括されるとともに、将来に向けた新たな方向性も示されました。それを端的に表すものが、高専制度創設60周年記念のキャッチフレーズです。それは「たゆまぬ挑戦、飛躍の高専!」です。このキャッチフレーズは奈良高専の学生が作成したもので、まさに高専生全員に当てはまるでしょう。60周年を迎えて改めて高専の存在と意義が見直されており、今高専には多くの方々から強い期待が寄せられています。それはすなわち、高専の卒業生である皆さんに大きな期待が寄せられていることに他なりません。

皆さんがこれまで受けてきた高専の教育には様々な特徴がありますが、主なものとしては、(1)15歳からの5年(7年)一貫教育、(2)40人クラスによる個性を尊重して育てる教育、(3)工学の理論と実践の両方をバランスした高等専門教育、(4)実験・実習・コンテストを多用した実務教育、(5)卒業後の様々な進路、などが挙げられます。

これらはそれぞれ独立した足し算ではなく、互いに相関しあった掛け算となって高専教育を大学や一般の高等学校にはない独特の優れた教育制度にしています。こう言うと人ごとのように思うかもしれませんが、この制度の中で研鑽を積んだ皆さんが共通して持っている工学技術者としての素養も、当然のことながら同じことが言えるのです。皆さんにとっては当たり前に見えることですが、実際は必ずしもそうではなくて、一般の大学や高等学校の卒業生にはない優れた素養を身につけているのです。

もう少し具体的に話しましょう。わかりやすい(5)についてみると、本科卒業生の約60%は就職して実社会で活躍します。残りの約40%は専攻科か大学の3年生に進学してさらに専門の教育を受けます。一方、普通高校や大学工学部では、ほとんどの卒業生は大学あるいは大学院に進学しています。このように卒業後の進路が画一的ですと、そこでの教育の内容や意義がその後の進路のためになりがちです。学生だけでなく教員も、その後の進路に役立つかどうかという意識や価値判断に知らず知らずに陥ってしまいます。高等学校の特に進学校の教育が、全てでないにせよ大学入試対策に比重が高まるのは当然です。

一方、高専ではそうはいきません。卒業して専門職業人として活躍しようとするものも居れば、大学などに進学する学生もいます。ここで培う専門家としての素養は、前者には社会での現場で役立つものでなくてはなりません。一方、後者にとってはさらに磨いて高めていく専門の基礎という意味合いが強くなります。目的が一つであればそのために特化することができて効率が良いように思うかもしれませんが、実はそうではなく、目的が一つに絞られない教育とそれによって培われた専門的素養がこれからの時代では非常に重要になっていると考えます。

20世紀において人類はそれまでに得てきた科学的知見を基に大きく文明を発達させて、豊かな近代社会を創り上げました。この時は右肩あがりの成長を基軸とするものでしたので、ほとんどにおいて万人にわかりやすい目標に向かって「イケイケドンドン」で進むことができました。しかし、21世紀に入ると、そのような文明社会の営みによる地球環境への影響や増え続けるエネルギー消費など、負の側面が顕になってきました。さらに、情報化社会の発達によって、人類がこれまで長年かけて構築してきた様々な社会システムに大きな変革をもたらされるとともに、生活様式も大きく変わろうとしています。加えて、昨年からのロシアによるウクライナ侵攻のような第2次世界大戦後に築かれた世界秩序の綻びや、人口増加と地球規模の人的交流の拡大によって新型コロナウイルスなどによるパンデミックの危険性の高まりが人類社会の発展に大きな影を落とすようになってきました。

これから皆さんが活躍する社会の今後の発展・展開は、科学技術だけでなく様々な社会情勢の影響が複雑に加わって、予測がつかない状況になってきています。高度な文明社会を支えて新たな展開を切り開く工学の内容や位置づけについても、今後の展開は同様に予測不能と言われていています。すなわち、工学そのものの目的や要素技術の使い道が従来のようにはっきりと決まらずに、時とともに大きく変わっていく可能性が十分にあります。目的志向の目的に縛られた価値観は時代に合わなくなってきたり、大きく揺らいできています。そのため、高専での教育のように目的が一つに絞られずに培ってきた専門的素養や価値観がこれから重要になってきます。しかも高専では特徴の(3)(4)のように、皆さんは身につけた知識や技術を、目の前にあ

る課題に実践応用する経験を少なからず持っています。そのことはこれからの新たな未知の課題と対峙した時に大きな力になるでしょう。

これらのことから、時代の先を見据えて変化に対応する力を持った人材を育成する高等教育機関として高専が改めて注目されています。皆さんは高専の卒業生・修了生であることに自信と誇りをもって、いい意味のプライドとして前向きに明確に意識してこれから存分に活躍していただきたいと願っています。

ところで、私は校長に就任して以来、これまであまり顧みられていなかった本校の校歌に皆さんが慣れ親しんでもらうよう働きかけてきました。皆さんは5年あるいは7年の長きにわたって本校で過ごして成長しました。それはこれからの皆さんの人生において大きな刻印となっているはずです。校歌は久留米高専と卒業生全員の時代を越えた共通の合言葉です。校歌と一緒に歌うことによって、同級生だけでなく、初めて会う先輩や後輩ともすぐ気心が知れるはずです。そのことは皆さんの人生を豊かにしてくれるでしょう。さあ、皆さんで校歌を歌いましょう。



卒業生の言葉

高専生活での誇りと感謝

機械工学科 5年 三原 凜太郎

この度、晴れて卒業できることをうれしく思います。教職員の皆様、親愛なる学友の皆様、そして一緒に卒業を迎えることができる同級生の皆さんに多大なる感謝を申し上げます。私たちは校舎を通り抜け、新たな道を歩み始めることとなります。私たちは本校で工学の基礎的な知識を身に付け、専門的なスキルを磨き、人間的な価値を養いました。卒業は学ぶことの終わりではなく、学ぶことの始まりです。これからは未知の世界が待ち受けています。私たちは新しい知識を求め、スキルを磨き、価値を養うことで、これからの社会を築いていけるでしょう。

私たちはここで数々の再試験やレポートを通じて挫折を経験しました。それらは私たちに強さと勇気を与えました。そして、今後待ち受ける様々な困難を乗り越えることができるでしょう。

5年前、真新しい制服を身に付け桜の舞うメインストリートの地に足を踏み入れました。中学時代とは全く異なる空気に期待と不安を感じながら、新たな学友とともに高専生活を始めました。

部活動では、高専ならではのロボットコンテスト部に入学し、ものづくりに関する様々な専門知識を身に付けました。中でも回路設計とプログラミングに深く関わり、本科では学ぶことができない多くの経験をすることができました。また、部員との共同プロジェクトを通して、大変価値のある時間や人間関係をもつことができました。特に思い出に残っているのは、私が3年生の時に開催された全国高専ロボットコンテストのために開発したロボットです。そのロボットはVRデバイスや専用開発したモーションキャプチャを通して遠隔操縦し、ロボット自身になりきることができるものです。このロボットの開発は、これまで重視されなかったデザイン面にもとても力を入れました。その結果、非常に愛らしく感じられるビジュアルに仕上げることができ、多くの方々から高評価をいただくことができました。

本科の授業では、鍛造や工作機械の操作を行う加工実習など、様々な経験ができました。また、金属塊が非常に精巧なタービンブレードに変えることができる5軸のマシニングセンタが動く様子は今でも鮮明に覚えています。それは私にとって非常に価値のある財産となっています。

ここで学んだこと、ここで出会った人々、ここで過ごした時間は私たちの人生において大切な財産です。それらは未来に向かって前進するための力となり、私たちが挑戦し、夢を叶えるための励みとなるでしょう。私たちはこの高専から卒業できることを誇りに思います。それは私たちの努力のみによるものではありません。教職員の皆様、学友、そして家族のサポートのおかげです。感謝の意をここに表し、私たちはそれを永遠に忘れません。

高専生活を終えて

電気電子工学科 5年 田代 滉太

久留米高専に入学してから早5年が経とうとしており、卒業が間近に迫ってきました。そこで、5年生まで高専生活を送った私なりの勉強での苦労話と、楽しかったことを書きたいと思います。苦労話は、入学から順に話します。他の高校とは違い、早い段階から専門的な学習ができる久留米高専に期待をして入学式を迎えました。1年生では軽い専門分野の授業もありましたが、それよりも数学の授業の印象が強く残っています。中学とは比べ物にならないくらい内容が難しく、しかも授業数も多かったためついていくのがやっとでした。そんな状況が2年生でまで続きました。3年生からは急に専門科目が増えました。電気科は、電気回路のようなハードウェアだけでなくプログラミングのようなソフトウェアの授業があり覚えることが多かったり、計算が複雑だったりで苦労しました。ただ、1、2年生でたくさん勉強した数学が専門教科で使われることが多く、それがわかったときはとても勉強したことが報われた気持ちになり、モチベーションの維持になりました。4年生になると、進路について考えだしました。私は大学編入を志望していたため、さまざまな大学を調べたり、受験に向けて勉強したりし始めました。それに加えて4年生は授業の科目数が急に増え、それらが重なってとても大変でした。4年生の4回の試験を終え、5年生になり、編入試験を終え、今は卒業研究に取り組んでいます。私の研究室では、自分でテーマを考えて研究をしています。締め切りが迫ってきているのでヒヤヒヤしながら研究を頑張っています。以上が苦労話でしたが、言えることは後々苦労するの一年生から勉強を真面目にしたほうがいいってことです。特に数学と英語が大切です。私は英語が得意だったため特段苦労はしませんでした。大学編入試験でも英語力は必要になってきます。なので早いうちからコツコツ勉強しましょう。勉強ではとても苦労しましたが、高専生活はとても楽しかったです。特に楽しかったことを紹介します。まず、部活動です。私はバドミントン部に所属していました。所属している同級生も先輩方もとても楽しい人たちで毎日の練習が楽しみでした。特に練習合宿では、夜遅くまで練習したり、遊んだりしてとても楽しかったのを覚えています。部活も楽しかったのですが、クラスメイトと過ごす日常も楽しかったです。5年電気科は、パソコンでゲームしている人が多いため、多い時では15人くらいで同じゲームをして遊んでいます。授業に支障が出がちですが、みんな夜遅くまでワイワイ楽しく遊んでいます。ぜひ、同じ趣味の友達だったり、部活動に参加して楽しい高専生活を送ってください。5年間ありがとうございました。

卒業生の言葉

卒業のことば

制御情報工学科 5年 佐藤 歩武

学年を重ねていくごとに1年が過ぎるのは早くなり、長いと思っていた5年間はあっという間に過ぎていきました。卒業を目前に控えた今、5年間で振り返ってみると色々な思い出があります。

中でも一番印象に残っているのが、最後の体育祭です。1年生のときの体育祭から、制御科応援団は毎年最下位争いをしていて、「応援合戦優勝は無理だろう」というイメージがみんなの中にあっただと思います。今年度はそんなイメージを払拭すべく、気合十分に夏休みから準備に取り掛かりました。しかし、いざ夏休みが始まると練習には中々人数が集まらず、思ったように練習ができない日々が続きました。はじめの頃には自分の中にあっただ熱い気持ちも、日に日に薄れていくのを感じていました。それでも、気持ちを切らさずに続けることができたのは、一緒に頑張ってくれている仲間がいたからです。それは応援団に限りません。看板長をはじめとする看板のメンバーは、夏休みから学校に来て制作に取り組み、夏休みが明けてからは毎日のように学校に残り、最高の看板を作り上げてくれました。殺陣長をはじめとする殺陣のメンバーは、少しでも多くのインパクトを残せるように、何度も音源を作り直し、おかしなコスプレもやってくれました。それからは「自分が今できることを精一杯頑張ろう」と思えるようになり、再び熱をもって練習に取り組むことができました。

そして、迎えた体育祭当日、制御科は応援合戦で見事優勝することができました。1位の発表のときに制御科が呼ばれてからは、大袈裟ではなく、本当に夢の中にいるようでした。ようやく実感がわくようになった頃には体育祭は終わっていて、だんだんと今までの思い出が頭の中を巡りました。難しい演舞がようやく揃ったときの感動、遅くまでも残って応援団の道具をつくったこと、殺陣の小道具をワクワクしながら買いにいったこと、色々な思い出が次から次に出てきて、気付けば自然と涙が出ていました。おそらく一生僕の記憶に残り続ける最後の体育祭は、協力してくれたみんなの一人でも欠けていたら成功していなかったと思います。一人ひとりが自分のやるべきことを精一杯やり遂げてくれたからこそ、最高の体育祭をみんなで作り上げることができました。

58期制御科は、普段は格別に仲がいいわけでも悪いわけでもありませんでしたが、いざというときには全員で団結できる頼もしいクラスでした。そして、個性的な人が多い高専の中で、お互いの趣味や好きなものを尊重しあえるとても優しいクラスでした。僕はこのクラスで5年間、仲間とともに高専生活を送ることができて本当によかったです。

最後になりましたが、5年間ご指導いただいた先生方、お世話になった先輩後輩、支えてくれた家族、そして58期の仲間たち、高専生活に携わっていただいたすべての方に感謝します。ありがとうございました。

5年間ありがとう

生物応用化学科 5年 進藤 湧斗

私は入学当初、高専の雰囲気になじめるのか、5年間一緒に過ごすクラスメイトと仲良くできるのか、授業についていけるのかと不安ばかり抱えていました。しかし、今ではそんな不安もなくなり、充実した学生生活だったと言い切ることができます。それも、この5年間支えてくれたクラスメイトや先生方のおかげです。

一年次は環境、授業形態、学校行事、このすべてが何も知らない状態から始まり、戸惑いを感じていました。しかし、この学生生活に慣れてきたころにはクラスメイトとも仲良くなり、一年目にして充実した時間を過ごせました。この年に参加した応援団では、先輩たちの姿を見て憧れを持ったのも今ではいい思い出です。二年次は「社会」を学んだ一年でした。結婚式場でアルバイトしてみたり、所属していた応援団では後輩への指導を通して、「伝える」ことの大変さが身に沁みました。三年次では新型コロナウイルスの影響で、遠隔での受講が始まった年でした。授業が遠隔対応になっても対応してくれた先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。そして専門の勉強が一気に専門的になり、ついて行けなくなりました。特に、酵素構造工学で赤点をとってしまい、生物が苦手になりました。この年に化学に進もうと決めました。素晴らしいクラスメイトに恵まれていたため、助けてもらいながら何とか自分なりの勉強方法をつかむことができ、四年生に上がることができました。四年次は専門科目の勉強を頑張った年でした。私は有機化学に興味があったため、化学コースに進みました。この年は専門科目も難しくなり、更には卒業後の進路も考えないといけない大変な一年でした。しかし、クラスメイトと協力して教えあい、時には先輩方から過去問やアドバイスをもらいながら乗り切った濃い一年でもありました。五年次では進学関係や研究室など、とても大変な時期でした。しかし、クラスメイトや先生方、卒業した先輩たちに支えてもらい、無事進学先も決まり、高専生活最後の高専祭も開催され、最高の一年となりました。

この5年間は本当に濃く、一生忘れない思い出となりました。久留米高専で学んだことを活かして、また来年から飛び込む環境に対して多くのことを学び、考え、実行し、前へ進むことを心がけようと思います。

最後になりましたが、これまで勉強面でも生活面でも多くのことを教えてくださった先生方、多くの刺激と楽しい日常生活をくれた同級生、新鮮な体験と新たな知見をくれた先輩たち、そして充実した学校生活を送らせてもらった久留米高専に心からの感謝を込めて、終わりの言葉とさせていただきます。ありがとうございました。今まで本当にありがとうございました。

卒業生の言葉

成長した5年間

材料システム工学科5年 美山 颯太郎

昨年末、サッカーワールドカップが開催され、日本代表がアジア勢初の2大会連続となるベスト16進出を果たしたことは、まだ記憶に新しいことと思います。ワールドカップやオリンピックは4年に一度行われますが、皆さんは前回のワールドカップが開催された年に何をしていたか覚えていますか。当時、私は1年生で、高専の様々な行事に参加した時、先輩方が行事を計画・運営しているのがとてもかっこよく見えました。それから4年が経ち、今年は5年生の自分たちが後輩を引っ張っていく立場になりました。私は、材料システム工学科の看板長として、体育祭の準備に取り組みました。結果的に看板は2位でしたが、クラスの仲間が協力してくれたおかげで、とても立派な看板を制作することができ、高専生活最後に相応しい体育祭にすることができました。

一方、部活動はバレーボール部に所属していました。3年生の時に一度やめてしまいましたが、バレーへの思いを断ち切れず、5年生になって復帰しました。最後の大会は負けてしまいましたが、仲間と一緒にバレーができたことはとても楽しかったです。2年ぶりに復帰することを許してくれた先生方や仲間には、とても感謝しています。「好きこそもの上手なれ」ということわざがあります。今、部活動などの練習がきついと感じている人もいるでしょう。そういう人は、何のために部活をやっているか、一度考えてみるといいと思います。きっとそれが好きだからなのでしょう。きつい練習でも、嫌だと思ってやるのと、好きだから楽しいと思ってやるのでは、同じ時間でも充実度がまったく違うと思います。後輩の皆さんには、高専在学中に何か一つでも夢中になって取り組めることを見つけ、打ち込んでほしいです。部活動をしていない人は、勉強でもアルバイトでもいいです。何事も一度好きになると、どんなにきついことでも乗り越えられ、確実に自身の成長に繋がると思います。

ところで、皆さんは「ジャンナーの法則」というものを知っていますか。この法則は、時間の体感年齢は年齢に反比例するというものです。人は20歳前後になると、体感的には人生の半分の時間を過ごしてしまったことになるそうです。何もせずとも、時間は刻々と過ぎていきます。時間は有限ですが、使い方は無限です。高専は、いろいろなことにチャレンジするにはとてもいい環境だと思います。先ほどの話とも少し関連しますが、今やっていることを極めることでも、新しいことを始めることでもいいです。5年間という長いようで短い時間の中で、ぜひ何かにチャレンジしてください。そして、皆さんが卒業する時に、自分は高専でこれを頑張ったと言えるものを持てるようになってほしいと思います。

修了生の言葉

前向きに生きること

機械・電気システム工学専攻2年 江崎 雄太

本科・専攻科合わせて7年間、小学校より長いのかと考えると本当に長い間この学校に通ったんだと実感します。という今も、研究発表が差し迫り、無事卒業できるのかハラハラしながら日々を過ごしています。高専では様々なことを経験しました。その中で、自分の納得できない結果になったことは多くあります。年に4回あるテストでは1回も満足できたことはなく、毎回もっと勉強しとけばよかったなと思っていました。部活でも公式試合で負けるたびに もっと練習しとけばよかったと思いましたし、5年次の編入試験でも第1志望の大学に落ちて もっと勉強しとけばよかった、就職しとけばよかったなど、挙げればキリがないほど後悔したことはたくさんあります。しかし、その結果、専攻科で第1志望の企業に内定をいただくことができ、もうすぐ卒業というところまで来ました。

本科、専攻科合わせて7年間自分は無駄なことばかりして、重要なことは中途半端にしただけで、後々そのしわ寄せがきていたように感じていましたが、自分がやってきたこと全てが今の自分を作り、今自分が満足できる結果を得ることができました。無駄だと思っていたことも、中途半端にしていたことも今の自分になるために必要不可欠なことであり、後悔していたことはなかったことになりました。1つの成功体験が自信につながり、悲観していたことが馬鹿らしく感じてきます。楽観的であることがすべていいことにつながるわけではありませんが、取り返しのつかないことなんてめったにありません。大抵のことは後からどうとでもできるということを知りました。大切なのは失敗したことをどう受け止めるか。なぜ失敗したのか反省し、次に生かすこと。言ってしまうと今すぐ直す必要がないこともあります。私は怠惰で、休みの日に課題をしなければならぬのに1日中YouTubeを見て過ごしてしまうことも多々あります。でも課題は次の日にすればいいのです。必要最低限のことはして、それ以上にか頑張れるのなら、頑張ったことは全て自分の成長の糧になります。前向きに考えて生きていけば、嬉しいことはより嬉しいことに、悲しいことは少し悲しいことになり、自分が嫌なことに目をつぶるのではなく、嬉しいことも嫌なことも受け入れて過ごすことで毎日楽しく生きていけています。だからこそ久留米高専の自由な校風のおかげで7年間のびのび生活し、このように成長できたことに感謝しています。卒業後も高専で培った経験をもとに精進していきたいと思っています。

最後に、高専生活でお世話になった先生方、学生の皆様、また毎日を支えてくれた両親にこの場を借りて感謝を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

修了生の言葉

高専生活を振り返って

物質工学専攻 2年 池上 沙良

15歳で入学し、22歳まで7年もの時を高専で過ごしました。とても長い時間を過ごしたはずなのに、一瞬で過ぎてしまったように感じるのだから不思議です。

高専には、1年生から専攻科2年生までの学生が在籍しているため、年齢層が広く、出身地もばらばらなためか、これまでの自分と自分の周りの"普通"が通用しない、刺激のある場所でした。クラスメイトや、他学年、他学科の多くの方々と繋がりができ関わっていく中で、自分では到底思い付かないような、枠組みにとらわれない思想の人や、賢い考えが出来る人など、色々な人がいることを理解し、柔軟に受け入れることができるようになったと思います。高専以外のコミュニティがたくさんある中で、ずば抜けているような面白い方々と関われる貴重な場所でした。

そんな高専には、それぞれの分野の専門性を高めた先生や学生がたくさんいます。約7年前、少しの興味から材料工学科に入学しましたが、入学する前から材料工学が好きで詳しくかかるといって、正直そうではありませんでした。専門教科の授業が理解できずに、不安になることもありましたが、しかし、何事もやってみれば楽しいのと同じように、とりあえず勉強していれば後から意欲や理解が追いついてくることは知っていたので、クラスメイトと切磋琢磨しながら、結果的に楽しく学ぶことができました。一番に、材料工学という分野に対して、さらに深く学び、それを自分の武器にしていきたいと思う気持ちになれたことは、自分の中で大きな収穫です。

来年度からは大学院へ進学し、金属材料に関する研究を進めていく予定です。大学院での研究活動を進めていくにあたって、ひとつひとつを丁寧に、こだわりを持ってやり続けるということが大事なのではないかと、専攻科での生活や研究を通して感じました。そして、やり続けるためには世の中の役に立つということが重要ではないかと考えます。単純な面白さや楽しさだけでは続けることができない、または、実験によっては楽しいと思えない時が沢山くるとは思います。役に立つという事実があれば、続けていけそうな気がします。今は卒業する寂しさや次のステップへ進む不安より、7年ぶりに新しい環境に変わることへの楽しみが大きいです。

最後に、いたらない点の多い私でしたが、研究室の担当教員として、お忙しい中最後まで指導していただいた森園先生、本当にありがとうございました。また、材料システム工学科の先生方には特に多くのことを学ばせていただき、大変お世話になりました。その他にも、関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。久留米高専に入学して、本当に良かったです。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ

機械工学科
5年担任
青野 雄太



活躍を期待しています

ご卒業おめでとうございます。本校の自由な校風に名残惜しさを感じているかもしれませんが、それよりも4月から始まる新しい生活への期待の方が随分上回っていることと思います。

私は皆さんの4、5年生の担任をさせていただきましたが、少年少女だった下級生の頃と比べると表情が変わり大きく成長しました。あまり好きでなかったかもしれない高専での勉強はこれで終わりですが、勉強は卒業しても続いていきます。皆さんと話をして豊かな才能、能力を感じていましたが、何故かそのことにあまり気付いていない様子でした。自分を信じてその能力を開花させてほしいと願っています。

電気電子工学科
5年担任
山本 哲也



ご卒業おめでとうございます

電気電子工学5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。世界は新型コロナウイルス感染症、戦争、環境問題等で混乱しているなか、これから始まる新生活に夢を膨らませている一方で不安も抱いていると思います。目標を達成するためには、避けては通れない苦難が必ずあり、最も厳しい状況を選んで進む必要があるかもしれません。そのような時こそ、これまでに学んだ知識や技術、友人は大きな力になります。何事にも力を尽くし抜かねば悔いが残る。後悔は自身最大の恥辱である。自分らしく前進してください。

電気・電子技術、情報通信技術はこれからも重要技術であり、皆さんは優秀な人材です。技術者・研究者としてのご活躍を期待しています。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ

制御情報工学科
5年担任
江頭 成人



ご卒業おめでとうございます

高専生活5年間は、いかがでしたでしょうか。良い思い出も、そうでないこともあったと思います。長いと思う人も短いと思う人もいると思います。

いよいよ卒業の日を迎えることとなりました。今皆さんは、喜びと別れの寂しさという二つの相反する感情をお持ちのことと思います。

しかしすぐに、新しい環境で、新しい出会いが訪れることでしょう。もしかすると、そこでは高専とは異なる文化、価値観に戸惑うこともあるかもしれません。しかしそれは、相手もそうなのです。

別れと出会いを繰り返しながら、輝かしい未来を信じて、自分のペースで歩いていってください。

生物応用化学科
5年担任
渡邊 勝宏



遅ーネアカのびのびへこたれず

生物応用化学科5年生の皆さんご卒業おめでとうございます。世界を激変させたCOVID-19の猛威。皆さんたちの学生生活は激変し、一番不利益を被った世代となる一方、世界全体で生活様式が一変し、新たな試みに一番柔軟に対応できる世代となりました。「ネアカのびのびへこたれず」今から34年前、福岡の地に再度プロ野球球団「福岡ダイエーホークス」を誘致したダイエーの創業者・中内 功氏の座右の銘であり、僕も大好きな言葉です！夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、逆境でも逞しく生き抜く力が大切であるという意味があります。激動の時代はまだまだ続きます。自らの力を信じ、逞しく道を切り開いていってください！

材料システム工学科
5年担任
岩田 憲幸



すべての出来事には意味がある

材料システム工学科5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの担任として過ごした3年間は、終始コロナ禍に翻弄された日々でしたが、ひとりひとりの成長を見守ることができたことを大変嬉しく思います。今、皆さんは人生の新たなスタートラインに立っています。人生は楽しいことばかりではなく、困難なこともあります。しかし、日々の出会いや出来事は必ず自分に何かを教えてくれます。これからのそれぞれの人生の中で、多くの人との出会いやさまざまな出来事があると思いますが、その一つ一つに意味があると考え、自分自身を高めていってください。皆さんの活躍を期待しています。

専攻科主事
川上 雄士



Love & Peace

専攻科修了生の皆様、久留米高専専攻科課程の修了と工学士の学位授与、誠にありがとうございます。皆さんが専攻科で学んだ2年間は新型コロナウイルスの影響を受け色々制約があった中で、これまでになかった新しいことにチャレンジを続けてきました。また、世界ではロシアとウクライナの戦争が勃発し、戦争が他人ごとではなくなった時代でもあります。残念なことですが、我々が学んでいるテクノロジーと戦争は密接な関係をもっています。皆さんが久留米高専で学んだ7年間に得たことを生かして、テクノロジーが人を傷つけないような愛と平和に満たされた世界になることを祈念しています。

退職教職員挨拶

楽しかった！ ありがとう！



機械工学科
特任教授
原田 豊満

楽しかった。久留米高専での19年半は実に楽しかった。メーカーに5年、県の工業技術センターに17年半いましたが、久留米高専が一番楽しかった。

自由な校風のなかでやりがいのある教育と好きな研究ができて、幸せでした。また機知に富んだ学生の皆様のおかげで、学園ドラマのなかにいるような感覚におそわれたことも一度や二度ではありませんでした。感謝、感謝です。着任時の先輩教職員の方々をはじめ教職員の皆様と学生の皆様に、心から感謝して

ております。本当にありがとうございました。

そして世の中なのか、私を久留米高専に導ってくれた運なのか、よくわかりませんが、「何か」にも感謝したいという気持ちを禁じえません。皆様、どうぞお健やかに、そして幸せにお過ごしください。

それでは、またいつかどこかでお会いしましょう。

ありがとうございました！

本校での12年半を振り返って



機械工学科
嘱託教授
和泉 直志

平成22年9月に採用され、定年と短時間勤務を経て3月で本校での勤務が終わります。平成25年度から4年間の教務主事、それに続く4Aと5Aの担任、教務主事の4年目から5年間のWebシラバスシステムの運用と改修の担当、再雇用中の「こういうことだったのか」と不勉強を詫び理解する喜びを感じた授業の見直し、振り返るとこのようになります。クラス担任さえ経験してない教務主事の、よくわかってないが故の無邪気な1年目と怖さが見えてきた2年目以降、それでも2期を務めさせて頂きました。5Aの担任では体育祭の応援合戦に交えてもらいましたが、当日朝実験室で振付けの復習をしていた間にクラスが事件を起こしました。Webシラバスでは動作不良の連絡や改修後のシステムの再稼働の日には、愚痴りながらも生き生きしていたと思います。楽しい12年余りを有難うございました。

退職のご挨拶



電気電子工学科
特任教授
池田 隆

定年後も2年の再雇用勤務の機会に恵まれ、この度、33年間の久留米高専での勤務を終えます。この間一緒に過ごして頂いた学生の皆さん、教職員の方々、卒業生、修了生の皆様に厚く感謝と御礼を申し上げます。有難うございました。

若さいっぱいの方々との場面が思い浮かびますが、この2年間は着任当時のような授業中心の日々でした。退職後は趣味を楽しみつつ何か地域や社会に貢献できることも探しながら過ごします。

未来に向けて、学生の皆さんが各自の目標に向けてチャレンジし、うまくいかない時は、立ち止まり、相談したり、戻ったりしながら希望を叶えられることを祈ります。また、急速な国際化の中で明治以後の日本や世界の歴史、そして英語力を含む国際コミュニケーション力の充実にも関心を持って頂ければ幸いです。

久留米高専の一層の発展と皆様のご健康をお祈り致します。

かつて大阪はよい街だった



電気電子工学科
特任教授
加藤 直孝

私は、大阪生まれ大阪育ちです。長く暮らしたのは1番目が1BM就職後の神奈川県、2番目が大阪府、運が良ければ3番目が岡山県（今から帰る場所）で、4番目が福岡県になると思います。最近、田中優子（前法政大学総長）応援団結成があるかもと思い、YouTubeを見ていたら、彼女は、浜っ尻らしく、「ダメじゃん」とかの「じゃん」を付けるのは横浜弁だと言っていました。私は、今も大阪弁（泉州弁）を貫いていると思ったら、「ダメじゃん」を頻発しているではないか。神奈川に住むと5年ほどで東京弁（神奈川弁）になった。ところが、大阪弁を使うとアイデアが湧いてきて、発明につながる。だから、大阪弁に戻した。大阪では、権威に歯向かうのがカッコいいことだった。聞いてください。

<https://aozoraroundoku.jp/voice/rdp/rd102.html>

グローバルニッチ



制御情報工学科
教授
江崎 昇二

学生時代を含め、今までの人生の半分以上を久留米高専でお世話になりました。

その間、最も多く関わったのは「ラグビー部」です。学生諸君といるいろいろな取り組みを考え、多くの事を学ばせていただきました。振り返ってみれば、思うようにいかず、もがき苦しんでいた頃が最も充実していたように思います。

学校の管理運営にも10年以上関わらせていただきました。女子寮新設、男子寮エアコン導入、認証評価、学校創立50周年記念事業、校内組織改革、学校紹介ビデオ制作等。昨年度、私の思いを形にしたロゴが採用され、この上ない喜びでした。

近年、「グローバルニッチ」となった高専制度は今後益々注目され、社会に貢献する者を輩出し続けていくことだと思います。その中でも、他の高専と異なる文化を持つ久留米高専が今後益々発展していくことを祈念しています。



退職教職員挨拶

あー楽しかった！



一般科目(理科系)
教授
篠島 弘幸

震災がまだ大きく影を落としてそここに見えていた2012年春、それまで一介の会社員だった私が、突然久留米高専の教壇に立つことになりました。推して知るべし。以降、何もできない私は、久留米高専教職員の皆様、保護者の皆様、関連関係方々に何度も助けて頂きました。ありがとうございました。何とか卒業を迎えることができそうです。

さらにまた、この11年間いつも私によくして下さったのは、他ならぬ学生のみなさんでした。何度もみなさんの想いに私は救われました。教えられ育てて頂いたのはむしろ私の方でした。生きるって密なですね。そう教えて下さったみなさんに心から感謝致します。ありがとうございました。あー楽しかった！

さて次は何を始めようかな…

退職にあたって



事務部長
吉田 規雄

久留米高専では3年間、大変お世話になりました。おかげさまを持ちまして、今年度末で定年を迎えます。思い起こせば、久留米高専への赴任時は、まさにコロナが拡大する初めての時期で、以降の入学式はもちろんのこと、様々な学校行事が中止となってしまいました。2年目以降もコロナの余波は緩急を繰り返しつつ継続し、現在も変異を重ねて猛威を振り続けています。

このような状況にも関わらず、教職員の皆様におかれましては「学生の学びを止めない」という思いのもと、教育や課外活動をはじめ、様々な教育指導にご尽力いただいたことに、改めて深く敬意を表します。私個人的にも定年最後の時期に、久留米高専での3年間の勤務は、大変貴重な人生経験になったと思います。在任3年間、皆様のご厚情に感謝申し上げますとともに、久留米高専の一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

大変お世話になりました



総務課長
吉田 覚

平成22年に有明高専から久留米高専に赴任し、本年3月末で13年が経ちました。それまでは、3年平均で異動していましたので、一つの組織で複数の係を担当することは珍しかったのですが、長期間勤務できたおかげで7つの役職を拝命し、より広く、より深く学校教育の現場に携わることができました。在職中は、多くの教職員の皆様のおかげで素晴らしい経験を積ませていただいたことに感謝申し上げます。

さて、本校の事務部は40歳未満の職員が半数を超える若い職場です。あと10年もすれば、一人一人が経験を積み、また事務職員の入れ替わりもあって組織として円熟期を迎えていることでしょう。その時、本校事務部が全国高専をリードする存在となっていることを期待しています。

最後に、4月から再雇用職員として、引き続き在職しますので、今後ともよろしく願いいたします。

四季折々の思い出にさよなら



学生課教務係
臨時用務員
寺崎 正文

この度3月末をもちまして学校用務員としての職を離れることになりました。

体育の授業では用具の貸し出し、グラウンド、野球場、テニスコートの草刈り、除草と校内清掃をさせていただき、皆様方には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

まだまだ社会に携わっていきたいと思いますので、これからも変わらぬご厚誼を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



機械工学科

機械工学科では1年生から5年生まで各学年で実験や実習を行っています。実験・実習を通して実践的・創造的技術者になるための基礎を体得します。今回は、「機械工学実験」について概要を説明します。

4年次に実施される「機械工学実験」では、設計工学、加工学、熱工学、流体工学、材料力学、制御工学など機械工学の主要な分野に関連する実験を行い、実験テーマの現象や理論について理解を深めます。機械工学科の全教員が各自の専門に関する実験テーマを掲げ、前期と後期にそれぞれ異なるテーマで学生実験を行います。各実験では、目的・内容・方法の理解、結果の整理・解析・考察能力、チームによる共同作業・調査・レポート作成能力を修得します。

令和4年度は以下のテーマで実験を行いました。

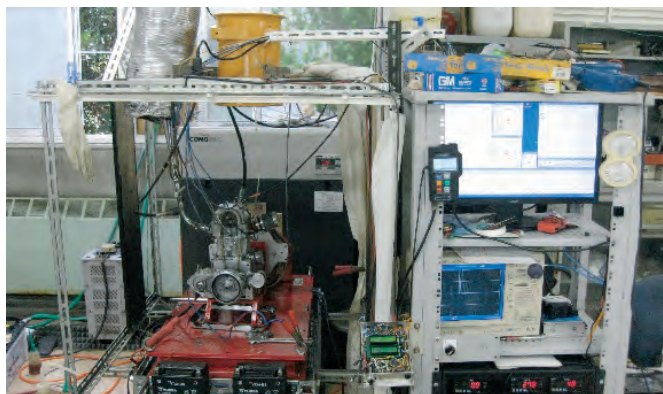
(前期)

- ・応力集中の測定
- ・表面粗さの測定と解析
- ・エコランカーの燃費性能解析
- ・歯車の歯厚測定
- ・マイクロ水平軸風車の性能実験
- ・水の物性値の測定
- ・硬さ試験
- ・種々のセンサー計測
- ・切削力の測定
- ・シーケンス制御の基礎
- ・皮膜断面組織の観測

(後期)

- ・FEMによる弾性解析
- ・光干渉法によるEHL油膜厚さの測定
- ・単気筒ディーゼルエンジンの性能実験
- ・歯車の精度測定
- ・送風機の性能試験
- ・スターリングエンジンの性能測定
- ・炭素鋼の引張試験
- ・DCサーボモータのフィードバック制
- ・炭素鋼の熱処理御
- ・シーケンス制御の応用
- ・橋梁模型の作製と評価

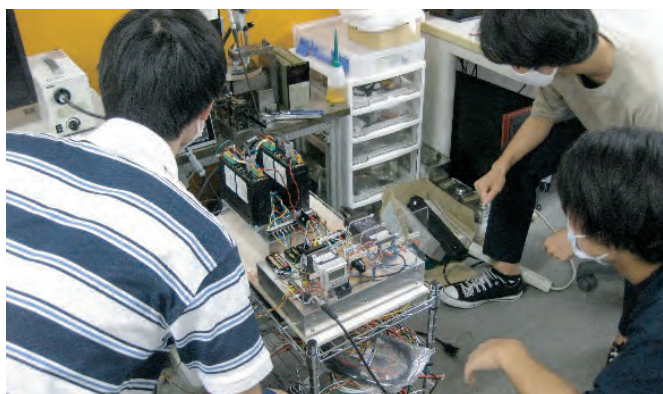
実験を通して、実践的・創造的技術者としてのスキルを身に付け、将来のエンジニアとして活躍することを期待しています。



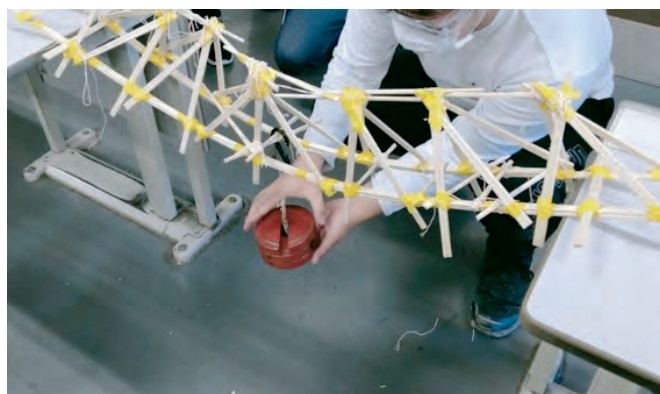
エンジンの性能実験



歯車の歯厚測定



油膜厚さの測定



橋梁模型の作製と評価

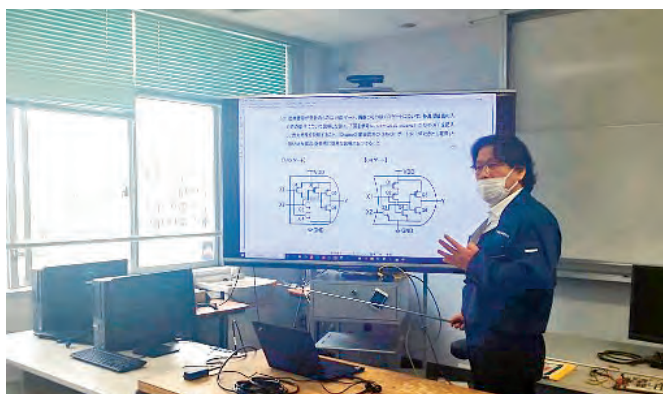
専門学科の実験・実習の様子

電気電子工学科

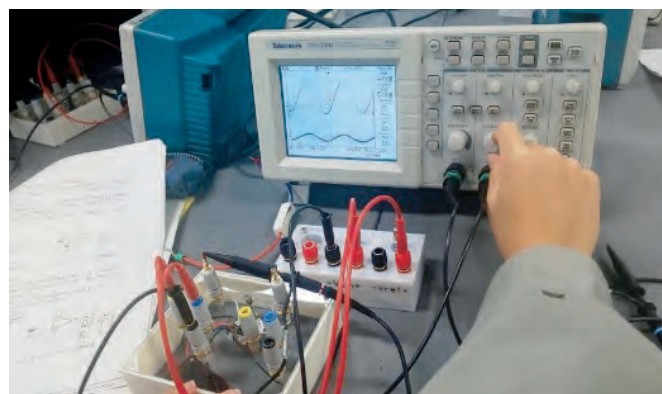
電気電子工学科では教育目的・目標として『教育目的：先端技術であるエレクトロニクスとICT及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する』及び『教育目標：電気電子技術者としての素養を備え、専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する』を掲げ、電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。講義、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取組める応用力育成を図るのが本学科の特徴です。『実験（及び演習）』は、講義で得られた知見等を体験的に学び、これらをより具体的に習得することを目的としています。高専通信第92号で当学科の実験実習の概略を、同第94号で4年生通年科目【電気電子実験2】後期分を解説しました。今号では専門科目実験の第一歩である3年生後期科目【電気電子実験1】を説明します。

3年生は電気電子工学を本格的に学びはじめる学年です。同実験でも到達目標として『電気・電子回路の理論を説明できる』『安全に対して注意を払いながら実験を遂行できる。』『実験により得られたデータを、他人にも分かるようにまとめ、データの解析・考察を行った上で報告書にまとめて、その内容を説明できる。』を掲げているように、電気電子工学各科目の基礎となる『電気回路』『電子回路』を、実験を通して理解すると同時に、技術者必須の『実際の現象と理論の相違点を実験により確認し、報告書作成を習熟する』ことも目的としています。また4年次に学ぶ半導体に関する予習の実験も行います。

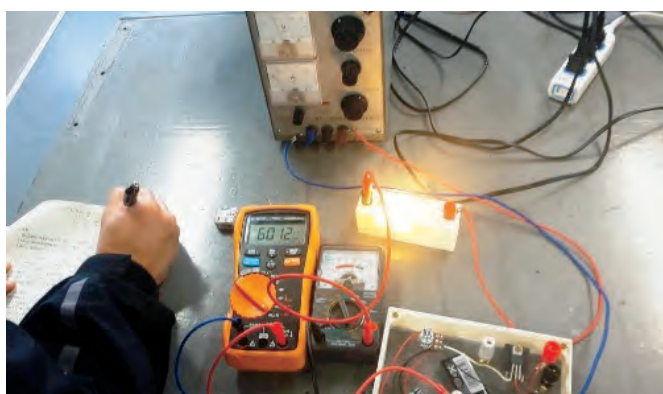
具体的には、教員や技術系職員の指導や助言を受けながら（写真1）、ブリッジ回路、オペアンプ（写真2）、テスターやオシロスコープ、交流信号測定、半導体素子の特性評価（写真3）、テブナンの定理・重ね合わせの理、論理ゲート回路（写真4）等の内容を、クラスを6班に分けて学生同士で話し合い試行錯誤しながら取り組みます。その中で、安全に対する姿勢や役割を意識して主体的に取り組む姿勢等を学ぶと同時にレポート作成を通してデータをまとめ考察する力や、レポートを期限内に提出できるよう計画をたて実践できる姿勢等、電気技術者としての基盤を学んでいきます。



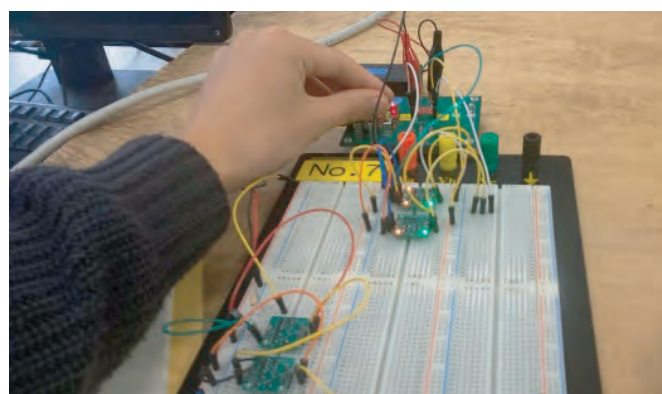
(写真1) 技術専門員による事前指導



(写真2) オペアンプの特性評価



(写真3) トランジスタの特性測定



(写真4) 論理回路（半加算器）実験

制御情報工学科

制御情報工学科の学生が受講している専門科目の電子情報実験について紹介します。

トランジスタは実は造語で「トランスファー（伝える）」と「レジスター（止める）」の両方の機能を併せ持つことを意味しています。この半導体素子であるトランジスタの発展のおかげで、電子回路および集積回路の技術が飛躍的に向上し、パソコンやスマートフォンを使っていると感じる事ができるように、今日の我々の暮らしを非常に便利なものにしてきています。さて、トランジスタのルーツについてですが、ベル研究所のJ. BardeenとW. H. Brattainにより発見され、1948年にPhysical Review誌に発表されました。これは、半導体結晶に2本の針を立てた構造の素子において、エミッタ側の電流変化の数倍の電流変化がコレクタ側で観測されたというものでありました。トランジスタは、真空管に代わる固体の増幅素子として当初から非常に注目されましたが、最初の構造では再現性に乏しく動作が不安定なものでありました。しかし、同じベル研究所のW. B. Shockleyによるp-n接合型トランジスタに改良されて再現性と動作が安定し、トランジスタの発明は人類に多大な利益をもたらした事が評価されてJ. BardeenとW. H. BrattainとW. B. Shockleyの3名は1956年にノーベル物理学賞を受賞しました。しかし実は、トランジスタは、最初からそのような物を作ろうと思って開発されたわけではなく、あくまで目の前の半導体結晶の電気的特性を研究している中で結果的に生み出されました物でしたが、現在は半導体産業の中心になっているというのは驚きです。結果ばかりを最初から期待し過ぎるよりも、目の前の課題に一生懸命取り組む事は大事ですね。



専門学科の実験・実習の様子

生物応用化学科

生物応用化学科では低学年より実験・実習を設定し、科学技術の実際に触れることで、その理解を促すとともに、高学年ではさらに専門的な実験や卒業研究により、エンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。生物応用化学科の学生たちは以下のような実験・実習を通して、化学や生物学に関連する基礎的な実験技術と実験データの解析方法、そして実験レポートの作成能力の習得を目指し、応用化学や生物化学の素養と実践的能力を伸ばしていきます。

【創造化学実験：1年】

化学物質及び生体物質を扱う生物応用化学の入門実験です。応用化学関連では、セッケン、ナイロンなど実際の化学製品を合成します。生物化学関連では植物の栽培、発酵（パン作り）などの実験を行います。

【分析化学実験：2年】

分析法が系統的に確立されている第1属～第3属陽イオンの定性分析を通して、薬品やガラス器具の使い方を修得し、金属イオンの反応を理解します。

【基礎生物化学実験：2年】

マイクロピペッターの操作、ビタミンCの定量、緩衝液の調製、顕微鏡観察、酵素反応などを学びます。

【有機化学実験：3年】

有機合成化学実験の基本的な操作である混合、溶解、加熱、冷却、蒸留、再結晶、抽出などの方法を学びます。

【生物化学実験：3年】

微生物を中心とした生物の観察・同定や遺伝子工学のPCR実験などを通して、将来のバイオ工業技術者として必要な知識を体験的に学習します。

【応用化学実験、生物工学実験：4年】

これまでに学んだ応用化学や生物化学関連の専門知識並びに低学年での実験・実習を踏まえて、各研究室で行われている卒業研究を体験します。本実験の習得が5年生での卒業研究への糧となることを目標としています。

【卒業研究：5年】

各学生が独自の研究課題を持ち、指導教員の下で研究の背景を調査し、実験を行い、結果をまとめて考察し、発表（口頭発表・論文作成）する能力を身につけます。



材料システム工学科

材料システム工学科は「ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の破壊、リサイクルまで、金属・セラミックスなどの工業材料に関する一連の専門知識を身につける」ことをコンセプトとしています。現在、地球規模で環境、エネルギーなど様々な問題が取りざたされていますが、「材料システム工学」はこれらの問題を解決するためには非常に大切な技術分野です。

1年生では、ものづくりの基礎を学ぶため、「材料加工実習」として材料加工に関する基礎的な実習を行います。ここでは、鋳造、鍛造、旋盤加工などの一般に行われている加工を学び、将来のエンジニアとしてのセンスを身につける科目となっています。また、危険な作業を安全に行うことができるように、安全に関する基本的なスキルを身につけていきます。

2年生から専門科目としての学生実験が始まります。「材料システム実験1」では、化学実験として、実験器具や分析機器の特性を理解し、取り扱うことができるように実験が組み入れられています。化学反応の基本である熱分解反応や沈澱反応などについて理解を深め、レポートの書き方を習得することを目的としています。また、3年生で開講される「材料システム実験2」では、金属材料に関する実験を行います。光学顕微鏡による組織観察や硬さ試験、引張試験など、基礎的な実験方法について学びます。

4、5年生で開講される「材料システム実験3、4、5」では、実験内容もさらに専門的かつ高度になります。座学で行われている講義内容に準じており、専門科目の理解を深めていくとともに複雑なデータ解析やより専門的な考察が必要となっています。また、卒業研究や教員が研究で利用する高度な実験装置や分析装置を活用した実験も行われ、これらの使用方法や解析方法を理解し、5年生での総まとめ科目となる「卒業研究」において活用できるような実験構成となっています。さらに企業と連携した実験項目も検討されており、社会ニーズに対応できるような変更も行われていく予定です。



材料加工実習の様子（鍛造加工）



基礎的な化学実験（中和滴定）



光学顕微鏡による金属組織の観察



高度な分析装置を用いた材料の解析実験

学生会の取組

ご協力してくださった皆様へ

高専祭実行委員長 松吉 宇宙

まずは今回の高専祭の開催のために協力してくださった皆様、そしてご来場いただいた皆様に感謝の言葉を述べたいと思います。本当にありがとうございます。前夜祭が中止になってしまったにもかかわらず、およそ2000人の方が来てくださり、数年ぶりに活気のある高専祭にすることができました。今年の高専祭はコロナ禍において初めての一般開放と飲食物販売の許可という二つのことを行いました。この二つの実現はとても難しく、実際は多くの苦労がありました。飲食物の取り扱いと販売に関するルールの構築、飲食エリアの設置、学校と協議を重ねての感染対策の徹底など挙げればきりがありません。長の協議で意見が割れ、話し合いが難航することも多々ありました。しかしそんな状況であっても皆が「高専祭を成功させたい」という強い思いのもと努力したおかげで、大きな問題もなく終わることができました。実行委員のみんなも本当にお疲れさまでした。コロナ禍での高専祭の通常開催はとても意味のあるものであり、のちの高専祭にもいい影響を与えてくれることでしょう。例えば新型コロナウイルスは私が1年生のころから流行し始めました。はじめは誰もがここまでの大きな問題となることを予想していなかったと思います。僕もその一人でした。

しかし行事はことごとく中止となり、授業の形態も変わり、生活スタイルすらも変わっていきました。実行委員会

の活動も決して例外ではありません。活動の大幅な自粛が要請されたことで、開催自体が危ぶまれることもありました。今まで引き継いできた知識が通用せず、あらゆる状況を想定し、その対策を練る必要がありました。実行委員会の長は特に負担が増え、なかなか過酷なものでした。私が1年生の時にはそもそも実行委員長をやっているとは思っておらず、新型コロナウイルスにここまで苦勞させられるとは思いませんでした。しかし実行委員長で得た経験はどれも貴重なものでした。いろいろな人と触れ合い、仕事をし、時に悩みながらも目標に向かって努力し、最後は達成感を味わうことができる。とてもやりがいのある一年間だったかなと思います。来年は高専生となって初めての楽しむ側の高専祭なので、全力で楽しみたいと思います。



従来の体育祭を目指して

体育祭実行委員長 益田 光

11月5日(土)、秋晴れの晴天に恵まれ、第57回体育祭が行われました。昨年度に引き続きコロナ禍ということがあり、様々な制限を伴う開催となりました。しかし可能な限り従来の体育祭に近づけたい、という強い思いで計画を進めました。結果として昨年より、来場者、競技数ともに増やすことができました。朝早くからお集まりいただいた保護者の皆様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。体育祭が少しずつ元の形に戻ってきていることを嬉しく思っています。

当日は実行委員の欠員もあり進行が滞る場面も見られましたが、優秀な後輩達の動きや応援団の皆様のご協力のおかげで最後までやり通すことができました。当日ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございます。

私自身、体育祭実行委員として5年間活動してきました



が、まさか自分が実行委員長を務める事になるとは予想もしていませんでした。リーダーとして組織をまとめるのは、初めての経験で大変なことがたくさんありました。ここには書けない程たくさんのごことです。本当に大変でした。しかし、実行委員のみんなと共に1つの大きな行事を作り上げたこの経験は大切なものとなりました。体育祭を終えて、保護者の皆様や同級生から激励の言葉を頂き、今までの努力が報われたように感じ胸が熱くなりました。また、今まで実行委員長を務めてこられた先輩方には改めて尊敬の念を抱きます。

体育祭の花形競技といえば応援団による演舞だと思います。応援団長をはじめとする各学科の応援団は夏休みから練習に励んでおり、体育祭ではその集大成を披露していました。どの学科も気迫に満ちていて、とてもカッコ良かったです。殺陣では、どの学科もオリジナリティが溢れていてすごく良かったと思います。劇や漫才などはとても面白く、ダンスはとてもかわかったと思います。途中、実行委員の練習不足により、音響トラブルが発生してしまいました。材料科の皆さん、大変申し訳ありませんでした。反省点や対策の引き継ぎをしっかりと行いました。

最後になりますが、校歌という大切な伝統を蘇らせてくれた校長先生、ご指導いただいた佐々木先生、鴨川先生をはじめとする教員の皆様、様々な点でご協力いただいた学生課の皆様には心より感謝申し上げます。

課外活動報告

錆びた戸の中で

ピアノ愛好会 代表 川崎 穂花

久留米高専の北の方、野球場前には、小さな学生部室棟があります。合気道部にロボコン部、サイクリング同好会や写真部——。さまざまな部活動が、小さい部室ながらも日々活動しています。

そんな学生部室棟の端に、ひどく錆びた、うすだいたい色の戸を持つ、小さな部屋があります。部屋の中は、大抵真っ暗で、人気は感じられません。おまけに、部屋に入ろうとしても、戸の取手が不気味な音を立てるだけで、決して開きません。しかし、授業終わりの日が沈み始める頃、この部屋から、綺麗なピアノの音色が微かに聞こえます。ショパンにバッハ、ベートーヴェン。ときどき、久石譲——。力強い曲もあれば、優しい曲やリズムカルな曲が、決して大きくは無い音ですが、確かに聞こえてきます。

そんな、美しいピアノの音色に聴き入っているのも束の間。曲が終わったかと思うと、そこら中に鳴り響く大きな打撃音。

「バンッ！——」

こうして日が完全に沈み、何事も無かったかのように、久留米高専に静かな夜が訪れます——。

こんにちは。久留米高専のピアノ同好会です。

ピアノ同好会には、ピアノを弾くのが好きな学生やピアノは弾けないが、音楽が好きな学生など、学年学科問わずたくさんの学生が楽しく活動しています。部員数が60人と、部活動の中でも部員が多く、「同好会」でありながらも、他の「部活動」に負けずに頑張っています。

日々の活動内容は、放課後に学生部室棟の端にある、年季の入ったピンクの戸が目印の部室や、D4教室のグランドピアノを使用して、部員各々が好きな曲を演奏しています。

「同好会」であるため、決められた活動日や活動時間はありません。しかし、活発的な部員が多く、ほとんど毎日、誰かがピアノを演奏しています。放課後の校内で耳を澄ましてみると、綺麗なピアノの音色が聴こえてくるかもしれません。

また、文化部発表会や高専祭に、「ピアノ同好会」として出演しています。今年の高専祭では、ステージで連弾などを披露しました。

今年度の大きな出来事として、歴代で最大規模だと思われる、部室の大掃除を行いました。何年にも渡り、大量に放置されていた、不要な物や壊れてしまったピアノを、たくさんの部員とたくさんの時間をかけ処分し、今までの「倉庫」や「怪しい部屋」の印象かわり、スッキリとした落ち着いた良い環境になりました。また、楽譜や文房具なども新調し、ピアノも新しいものが届く予定です。さらに、部員にしか開けることのできない、開閉時に大きな音を立てる気まぐれなドアノブも、誰にでも開けることが出来るようにならないかと、考えているところです。

ピアノ同好会は今後も、ピアノ経験者に限らず、未経験者の部員も大募集中です。ぜひ興味のある方は、ピアノ同好会のあのピンクの戸を叩いてみてください。ドアノブはとても硬いですが、部員とピアノは温かく迎え入れます。



各種コンテスト・体育大会結果 一覧

第59回九州沖縄地区高専体育大会の主な成績

(6月30日～11月15日)

競技種目	種目詳細	氏名	成績
陸上競技	男子 200m 走	岩崎 良太	優勝
	男子 400m 走	岩崎 良太	2位
	男子 三段跳	小幡 順平	優勝
	男子砲丸投	小幡 順平	2位
	男子4×100mリレー		3位
	男子4×400mリレー		3位
	女子円盤投	清原 小百合	優勝
	女子やり投	清原 小百合	優勝
水泳	女子砲丸投	片田 莉菜	2位
	男子200m平泳ぎ	近藤 晴人	2位
ラグビーフットボール			優勝
剣道	男子団体		2位
	女子団体		3位
	女子個人	下村 優依	3位
サッカー			優勝
バレーボール	女子		2位

第57回全国高等専門学校体育大会

(8月20日～8月24日)

競技種目	成績	備考
サッカー	準優勝	

第29回九州高等専門学校U-19サッカー大会

(12月17日～12月18日)

チーム名称	成績	備考
サッカー部	優勝	

第53回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会

(1月4日～1月9日)

競技種目	成績	備考
ラグビー	3位	

第8回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会

(7月9日)

競技種目	種目詳細	成績
弓道	女子団体	3位

第9回全国高等専門学校弓道大会

(9月1日～9月2日)

競技種目	種目詳細	成績
弓道	女子団体	準優勝
表彰学生氏名	表彰内容	備考
吉田 瑞姫	射道優秀賞	

第33回全国高専プログラミングコンテスト

(10月15日～10月16日)

チーム名称	メンバー氏名	表彰内容
λ	二又 庸輔、田中 伶佳、叶 弥悟	競技部門 特別賞

第55回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

(10月28日)

表彰学生氏名	表彰内容	備考
堀松 幸	暗唱部門 2位	

第16回 I S I P S

(11月10日)

表彰学生氏名	表彰内容	備考
江口 卓郎	Best Presentation Award (最優秀プレゼン賞)	

令和4年度 大学編入学合格状況等

令和5年1月末時点

大 学 名	合 格 者 数					計
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	
筑波大学（理工）	1					1
筑波大学（情報）			2			2
千葉大学（工）	1	1				2
東京工業大学（情報理工）			1			1
東北大学（工）			1			1
新潟大学（理）				1		1
長岡技術科学大学（工）		1		2	2	5
富山大学（都市デザイン）					1	1
岐阜大学（情報）			1			1
豊橋技術科学大学（工）	1	3	1	6	1	12
滋賀県立大学（環境）				1		1
京都大学（工）	1					1
京都工芸繊維大学（理工）	1					1
大阪大学（工）		1				1
大阪府立大学（工）					1	1
広島大学（工）	1					1
愛媛大学（農）				1		1
九州大学（工）	2	4	1	2	4	13
九州工業大学（工）		2			1	3
九州工業大学（情報工）			3	1		4
佐賀大学（理工）	1	4		2	2	9
長崎大学（経済）		1				1
長崎大学（環境）				1		1
熊本大学（工）		3	3		1	7
宮崎大学（工）		1				1
鹿児島大学（工）	1					1
山口東京理科大学（工）				1		1
北海道大学（工）			1			1
ANA航空学校	1					1
古賀国際看護学院				1		1
合 計	11	21	14	19	13	78

令和4年度 久留米高専専攻科合格状況

大 学 名	合 格 者 数					計
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	
久留米高専専攻科（推）	3	4	4	4	7	22
久留米高専専攻科（学）前期	2	7	7	2	6	24
久留米高専専攻科（学）後期		1	3			4
合 計	5	12	14	6	13	50

令和4年度 専攻科・大学院合格状況

令和5年1月末時点

大 学 名	合 格 者 数		計
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	
東北大学大学院	1		1
東京工業大学大学院	1		1
静岡大学情報学部	1		1
大阪大学大学院		1	1
九州大学大学院	6	9	15
大阪工業大学大学院		1	1
合 計	9	11	20

令和4年度（令和5年3月）卒業予定者の就職内定状況

令和5年1月末現在

機械工学科	I-PEX株式会社、Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社、JX金属株式会社、システムデザイン開発株式会社、セイコーエプソン株式会社、パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション株式会社、ファナック株式会社、株式会社LIXIL、株式会社ニコン、株式会社九電工、株式会社小松製作所、株式会社東洋新薬、自衛隊、西部電機株式会社、東京エレクトロン株式会社、日鉄ハードフェイシング株式会社、日本精工九州株式会社、不二ライトメタル株式会社
電気電子工学科	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社、トーテックアメニティ株式会社、株式会社FIXER、株式会社J-POWERハイテック、株式会社メンバーズ、株式会社西部技研、株式会社日立ビルシステム、九州電力株式会社、村田機械株式会社、中部電力株式会社、日本原子力発電株式会社、富士電機株式会社
制御情報工学科	CTCシステムマネジメント株式会社、エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社、キャノンメディカルシステムズ株式会社、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社、デジタルトランスコミュニケーションズ株式会社、株式会社FIXER、株式会社クボタ、株式会社富士通エフサス、株式会社福岡銀行、九電テクノシステムズ株式会社、日立物流ソフトウェア株式会社、武井電機工業株式会社
生物応用化学科	MHIソリューションテクノロジーズ株式会社、アステラス製薬株式会社、ニプロ株式会社、旭化成株式会社、株式会社三井化学分析センター、株式会社西部技研、京セラ株式会社 鹿児島国分工場、小川香料株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社、第一三共プロファーマ株式会社
材料システム工学科	JX金属株式会社 佐賀閼製錬所、UBE株式会社、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、株式会社LIXIL、株式会社アーステクニカ、株式会社ディスコ 広島事業所、株式会社メガテック、株式会社佐賀LIXIL製作所、株式会社三井三池製作所、株式会社資生堂 福岡久留米工場、株式会社太平環境科学センター、京セラ株式会社 鹿児島国分工場、三谷伸銅株式会社、昭栄化学工業株式会社、田中藍株式会社、東京ガスネットワーク株式会社、独立行政法人国立印刷局、日之出水道機器株式会社、日本タングステン株式会社

令和4年度（令和5年3月）専攻科修了予定者の就職内定状況

令和5年1月末時点

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社、TOTO株式会社、エヌエヌ生命保険株式会社、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、ソフトバンク株式会社、トヨタ自動車株式会社、トヨタ自動車九州株式会社、株式会社オートテックジャパン、株式会社ディスコ、株式会社中央エンジニアリング、株式会社日産オートモーティブテクノロジー、富士通クラウドテクノロジーズ株式会社、平田機工株式会社	海上自衛隊幹部候補生学校、沢井製薬株式会社、株式会社タカギ、株式会社東洋新薬

企業名は順不同